

海洋汚染防止からSDGsを考える 「日本・欧州対話 2019 横浜」を一般公開

横浜市立大学国際総合科学群の青正澄教授（専門：環境政策論）は、『「日本・欧州対話 2019 横浜」プラスチック海洋汚染防止への道標～SDGsの目標達成に向けて～』を開催します。

今回の国際シンポジウムでは、欧州でプラスチック系廃棄物による海洋汚染問題を研究している大学や研究機関から専門家を招き、その対策を学び東アジア全体で早期に対応する方法について考えます。この問題を考えることで環境問題への共通理解を持つとともに、より住みやすい環境づくりに向けたSDGsが掲げる目標達成を推進します。特に登壇者であるレイモンズ・エルンスティンズ教授は、ユネスコの沿岸開発部門の議長であり、プラスチック系廃棄物による生態系への影響について貴重な話を伺える数少ない機会です。これは、総合講義「環境論入門」（共通教養科目）の一環で行われる国際シンポジウムとして一般に公開するもので、環境問題に関心を持つ学生、一般市民のみなさまに参加いただけます。

【概要】

- 日 時：平成 31 年 4 月 23 日（火）16 時 15 分～18 時 20 分
- 場 所：横浜市立大学金沢八景キャンパス（横浜市金沢区瀬戸 22-2）
シーガルセンター3 階シーガルホール
- 対 象 者：一般市民、学生（400 名）※同時通訳あり
- 後 援：環境省、横浜市文化観光局、川崎市
- 内 容：世界では、年間 800 万トンのプラスチック系廃棄物が海洋へ流入しているという報告があるとともに、2025 年にはその廃棄物が 2 倍に達するという予測があります。特に、日本や中国を含む東アジア地域から排出されるプラスチック系廃棄物は、海洋環境を汚染し、漁業資源等の枯渇、水質劣化を引き起こす危険性が急速に高まることが懸念されています。当日は、「海洋汚染防止」をテーマにゲストスピーカーによる講演を実施します。

○登壇者紹介：

レイモンズ・エルンスティンズ教授（ラトビア大学）

ユネスコ沿岸開発部門議長。持続可能な海洋政策を専門としてバルト海の政策形成に尽力している。

トービヤス・ニールセン博士（スウェーデン・ルンド大学）

STEPS 研究グループの中心人物。科学的な研究を基に企業や自治体等へ持続可能な社会に向けたプラスチック利用と代替品への変更を提案している。

※その他の登壇者

勝俣孝明氏（環境大臣政務官）、ベルナディア・チャンドラデウィ氏（UCLG-ASPAC）、

堀田康彦氏（地球環境戦略研究機関）、アンソニー・ギャラガー氏（英国・ソレント大学）

お問い合わせ先

（シンポジウムについて）国際総合科学群 教授 青 正澄 Mail blue@yokohama-cu.ac.jp

（取材対応窓口）広報室長 小林 聖子 Tel 045-787-2414 Mail koho@yokohama-cu.ac.jp